

グローバル時代に求められる国際人材 シンポジウム

【テーマ】

国際競争を勝ち抜くための人材育成と確保

－ 山形大学における先進的な取り組み事例から －

受付開始 14:30～

【シンポジウム】 15:00～17:20

- ・開会の挨拶 山形大学大学院理工学研究科研究科長・工学部長 飯塚 博 氏
山形大学大学院理工学研究科 教授 とうほくMITRAIコース長 高橋 幸司 氏
- ・「とうほくMITRAIコースの現況と今後の展開」 山形大学大学院理工学研究科 准教授 野田 博行 氏
- ・「地域に貢献する山形大学の国際化教育」 山形大学大学院理工学研究科 准教授 仁科 浩美 氏
- ・「日本語教師として海外赴任から感じることー誤解を受けやすい日本語表現ー」 海外日本語学校 講師 野村 研三 氏
- ・「とうほくMITRAIコース在校生による発表」 とうほくMITRAIコース在校生
- ・閉会挨拶 山形大学大学院理工学研究科 教授 ものづくり技術経営学専攻長 兒玉 直樹 氏

【懇親会】 17:30～19:30

エネルギー価格の上昇、東日本大震災の影響、海外における自然災害などが、いま山形県内の企業に深刻な影響を与えています。一方で国際社会ではグローバル化とボーダレス化が目まぐるしい勢いで日々、進んでいます。

日本国内では、少子高齢化による市場縮小と団塊世代・熟練工の大量退職、恒常的な財政赤字、若者の内向き志向などによって国際競争力の相対的な低下など諸課題が山積しています。このようななかで日本企業の事業展開や生き残りのためにカギとなるのが、世界を舞台に活躍できる優秀な国際人材の確保と人材育成のための仕組みです。

このシンポジウムでは、上記のような視点からこれからの時代を切り拓くための「国際人材の育成」に焦点をあてて議論を深め、山形県内企業のグローバル化推進の在り方を検討します。



山形大学大学院理工学研究科 ものづくり技術経営学(MOT)専攻
とうほくものづくり国際人材育成プログラム
【アジア人財資金構想 経済産業省・文部科学省連携事業】

とうほくMITRAIとは・・・Management of Technology, Monozukuri Industry Talents Relating to Asian Innovationの頭文字をとった略です。

山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学(MOT)専攻は、平成20年度から平成23年度まで、経済産業省・文部科学省の支援を受けて留学生教育を進めてきました。このプログラムは、世界各国から優秀な留学生をリクルートし、山形大学において高度な専門教育と技術経営学にかかわる特殊教育を実施するとともに、日本に関連する教育(日本語、日本ビジネス、日本事情、日本文化などの日本教育)を行うものです。大学院を修了した留学生は卒業後に山形県内に就職し、企業の海外における市場開拓、海外への技術移転、事業展開、マネジメントなどの局面において中核的な役割を担うものです。山形大学では引き続き、数多くの優秀な留学生を世界各国から受け入れ、山形県や東北地域の企業への就職を通じて、グローバル展開を推進する企業を支援していきます。

主催: “もっとみらい”コンソーシアム / 共催: 山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻



- 会場: 山形大学工学部「100周年記念館」(セミナーホール)
〒992-0038 米沢市城南4-3-16
山形新幹線、奥羽本線、米坂線「米沢駅」よりバスで10分
「山大正門前」下車
- 日時: 平成25年5月15日(水)
シンポジウム: 15:00～17:20
懇親会: 17:30～19:30
- 参加費: シンポジウム: 無料 (懇親会は2,000円(当日))
申込方法: このチラシ裏に必要事項を記入のうえ、FAXにてお申し込みください。または裏面の記載事項を明記のうえ、メールにてお申し込みください。
- その他: シンポジウムのテーマ、山形大学の取り組む国際人材育成、コンソーシアム活動に興味・関心のある方は自由に参加できます。



【申し込み先】 もっとみらいコンソーシアム事務局

FAX: 0238-26-3772

メールアドレス: takesi-w@indigo.plala.or.jp

【問い合わせ先】

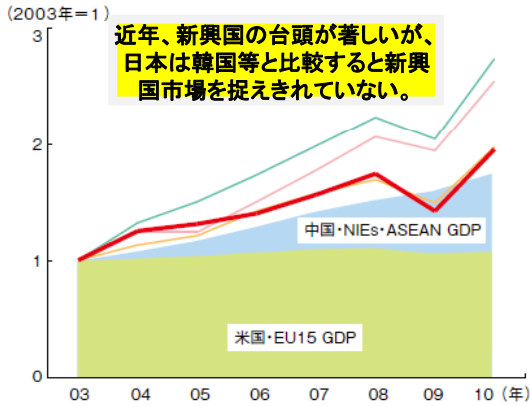
山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻とうほくMITRAI(みらい)コース

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 TEL:0238-26-3622

近年の国際経済の変化と日本企業の現状

今後、世界経済は先進国ではなく新興国・開発途上国において市場が急拡大すると見込まれています。しかしこれまで技術・ものづくり立国として君臨してきた日本の企業は、グローバル化の波に十分に乗りきれず、相対的な国際競争力が低下しているといわれています。日本の若者の内向性、少子高齢化と人口減少、恒常的な財政赤字、団塊世代の大量退職、技術の継承など様々な問題を背景に、いま我々は変革と実行が求められています。

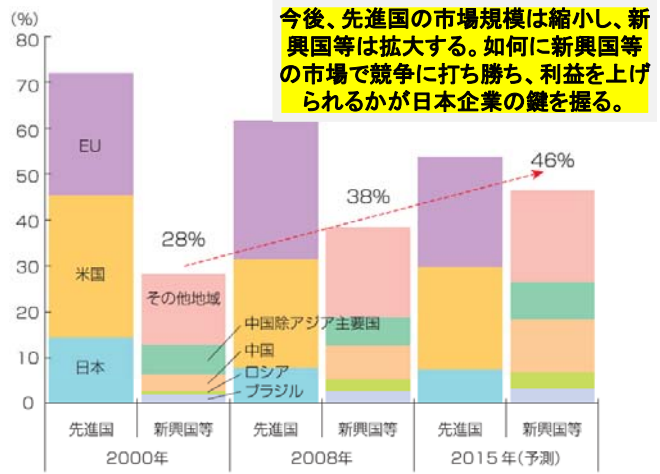
アジア新興国の成長と主要国の輸出金額の拡大



備考: EU15とは、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、英国、デンマーク、アイルランド、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、フィンランド、スウェーデン、オーストリアの15カ国を指す
資料: GLOBAL TRADE ATLAS, 世界銀行WDI

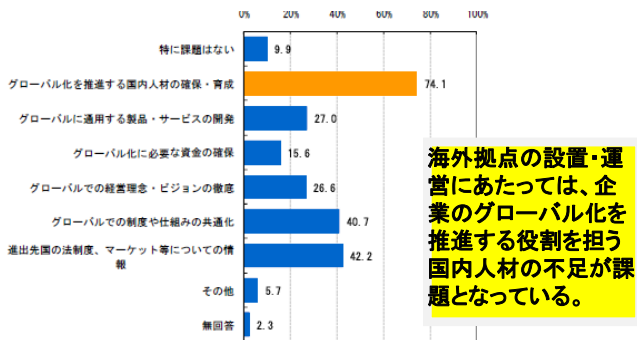
(出所) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省編「2011年版ものづくり白書」経済産業調査会。

世界主要国・地域の名目GDPシェアの推移



(出所) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省編「2010年版ものづくり白書」経済産業調査会。

グローバル化の推進にあたっての課題



(出所) 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」

(出所) 産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会編(2010)「～産学官でグローバル人材の育成を」経済産業省
(<http://www.meti.go.jp/press/20100423007/20100423007-3.pdf>)。

Fortune Global 500 アジア企業ランキング(2005年、2009年)

2005年			2009年		
アジアランク	Global 500ランク	企業名	アジアランク	Global 500ランク	企業名
1	7	トヨタ自動車	1	9	Sinopec
2	18	NTT	2	10	トヨタ自動車
3	23	日立製作所	3	11	日本郵政
4	25	松下電器	4	13	China National Petroleum
5	27	本田技研工業	5	15	State Grid
6	29	日産自動車	6	40	サムスン電子
7	31	Sinopec	7	44	NTT
8	39	サムスン電子	8	51	本田技研工業
9	40	State Grid	9	52	日立製作所
10	46	China National Petroleum	10	67	日産自動車
11	47	ソニー	11	69	LG電子
12	56	日本生命	12	72	S&K Holdings
13	72	東芝	13	79	パナソニック
14	80	東京電力	14	80	Petronas
15	92	Hyundai Motor	15	81	ソニー
16	96	NEC	16	87	Hyundai Motor
17	98	第一生命	17	92	Industrial & Commercial Bank of China
18	99	富士通	18	96	日本生命
19	112	イオン	19	97	東芝
20	113	明治安田生命	20	99	China Mobile Communications

アジア内での日本企業の存在感は低下傾向にあり、その地位の維持すら危ぶまれている。

注) ランキングは売上高の順位
(出所) Fortune Global 500 (2005年, 2009年)

(出所) 産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会編(2010)「～産学官でグローバル人材の育成を」経済産業省
(<http://www.meti.go.jp/press/20100423007/20100423007-3.pdf>)。

今回のシンポジウムでは、これまでの山形大学の先進的な取り組みを基礎に、特に山形県内企業に求められるグローバル人材の育成・確保という観点から議論を進めます。また優秀な国際人材(留学生)の確保とグローバル化への対応を検討します。

【グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム】

申込締切日:平成25年5月11日(土)

FAX番号:0238-26-3772 / メールアドレス: takesi-w@indigo.plala.or.jp

※メールの場合はタイトルに「シンポジウム申込」と記載のうえ下記の内容を明記してお送りください。

ご氏名(ふりがな)			
ご所属(会社名)			
ご連絡先	〒		
電話番号		懇親会 (どちらかに○)	参加する ・ 参加しない